

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2013年6月NO.31

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

5

カリトン(手押し車)

どこまでも転がそう!

子どもは何でも遊び道具にしてしまいます。フィリピンの子供たちは、木の棒を使って古タイヤを上手に転がして競争していました。

写真: センター42(東サマール州ボロンガン)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



チャイルドたちの夏休み

～ 発見と成長とチャレンジと ～





皆様には、温かいご理解とご協力をチャイルド・ファンド・ジャパンにお寄せくださり、心からお礼を申し上げます。ここに2013年度最初の機関誌「スマイルズ」をお届けいたします。

私共は2011年3月より、岩手県大船渡市を中心に「緊急・復興支援事業」に携わってきましたが、その活動を去る3月31日で終了いたしました(詳細記事を5頁に掲載)。この間、国内外から大きなご支援をいただきました。また、大船渡市の戸田市長始め皆様にはチャイルド・ファンド・ジャパンを復興のパートナーとして受け入れていただきましたことを、改めてここに感謝、ご報告申し上げます。

この号の特集記事でご紹介しているように4～5月、フィリピンは夏を迎えています。皆様からご支援いただくチャイルドたちも夏ならではの新しい経験をしながら成長しています。また、この5月をもってスポンサーの皆様のご支援を「卒業」するチャイルドも居ります。これらのことは一重に、皆様のご支援によることを思い、ここに深く感謝を申し上げます。

チャイルド・ファンド・ジャパンはこれからも、愛と奉仕により、世界の子どもたちの笑顔をつなげるため、活動の充実を祈りつつ励んで参ります。皆様には、今年度も温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様方の上に主の祝福をお祈りいたします。

理事長 深町正信



感謝の集い「ありがとう大船渡」で、戸田公明大船渡市長(右)に「感謝の盾」を渡す深町正信理事長



チャイ

発見

フィリピンでは日中の最高気温が35度まで上がる4～5月、学校が夏休み*になります。チャイルドたちが在籍する協力センターは、この夏休みを有効に使って、日頃はなかなか取り組めないキャンプ、スポーツ大会、補習授業などを行い、チャイルドたちの成長を支援します。



「チャイルドたちが精神的にも成長できるよう、夏ならではの活動を行っています」と話すセンター長のウェンさん。

ミンダナオ島のジェネラル・サントス市にあるNDBRCFI・ラネスティン・デベロップメント・センターでも、この夏休み、チャイルドたちが新しい経験の中で自分を見つめ、チャレンジを続けています。

このセンターでは現在、バジャウ族¹やブラアン族²など、多文化のチャイルド350名がスポンサーの方々から支援を受けています。生活する地域が離れていることもあり、普段はなかなか全てのチャイルドたちが集まることはできません。センターは夏休みに地域の学校などを借りて全体集会とスポーツ大会を実施しました。ほとんどのチャイルドが参加するこれらのイベントは、それぞれのチャイルドに特別な思いを残します。

*フィリピンでは、6～10月＝雨季、11～5月＝乾季。乾季の終わりの4～5月が最も暑い「夏」。

- 1 海を漂う民「漂海民族」として知られる。フィリピンやマレーシアなど東南アジア一帯で海の浅瀬に高床式の家を作って生活したり、小さな船に生活道具を積み込み船上で生活している。伝統的には漁業で生計を立ててきた。
- 2 独自の文化や習慣をもち、山岳地帯で焼畑や狩猟で生計を立てていた少数民族。1970年代、不法伐採などにより森林が失われ、新たな入植者に生活していた土地を奪われ、自給自足に近い生活が出来なくなり、都市部に移住する人が増えている。教育の機会に恵まれておらず、厳しい生活や差別に苦しむ人たちが多い。



センターのスタッフたち(中央がセンター長)。スタッフはそれぞれ約50人のチャイルドを担当し、家庭とも連携しながら、その成長を支えます。

ルドたちの夏休み

と成長とチャレンジと〜



自分を振り返る

夏休み中のひとつのプログラムで、自分を振り返る活動があります。チャイルドたちは学年に応じて三つのグループに分かれ、それぞれのグループは二重の輪を作りました。そしてスタッフの指示に従って、配られた紙に自分の特徴を書いていきます。11歳になるチャイルドの一人、レイマークは、「親しみやすい」(friendly)と「ユーモアがある」(sense of humor)と書きました。スタッフが「スタート」と声をかけると、内側の輪



「ストップ」の合図で、一番近くのチャイルド同士が互いに自己紹介し、特徴などを確認し合います。

(写真提供:センター34)



レイマークのお母さんが仕入れる魚は小ぶりのものばかりです。

(写真提供:センター34)

お母さんを
恥ずかしく思うことは
もうないよ

レイマーク



「レイマークが『お母さん、おやすみ。大好きだよ。』と言うようになった」と、涙を浮かべて話すレイマークのお母さん。



300人を超える

チャイルドたちが校庭に集合!(写真提供:センター34)



「今までの経験で二度と繰り返したくないことは?」という質問に、静かに自分を振り返るチャイルドたち

(写真提供:センター34)

そのことをグループのみんなに説明しました。

数日後、レイマークのお母さんを訪ねると、お母さんは「イベントに参加したあの日の夜から、レイマークが『お母さん、おやすみ。大好きだよ』と言ってくれるようになった」と涙ぐみながら教えてくれました。この夏、レイマークは自分の心の壁をひとつ乗り越えました。

新たなチャレンジ



ノレンの家の壁にはスポンサーから送られたたくさんのカードが貼ってあります。

ようになったこともあり、ノレンは大きな病気をすることもなく成長し、ハイスクール3年生となった今、栄養状態は「標準」になっています。

ノレンにとって今回が最後のスポーツ大会です。と言うのも、17年間の支援を経てティノト村が自立するため、ノレンも5月でチャイルドを「卒業」するからです。ノレンは応援してくださるスポンサーに感謝の思いを込めて200メートルを一生懸命に走ろうと決めました。

スタッフの「よーいドン!」の合図でチャイルドたちが走りだし、ノレンは1番でゴールへ飛び込みました。

そんなノレンに将来の夢を聞くと、「先生か看護師になりたい」とのこと。「もしスポンサーの支援がなかったら、学校に通えず、お金持ちのお家で住み込みのお手伝いでもやっていたかな」と語りました。ノレンは、小学校からハイスクールまで勉強を続けたことで、将来への夢を広げることができました。6月からは支援を「卒業」し、生活が安定した両親の力でハイスクール4年に進学します。成長したノレンは、夢の実現に向けて、チャレンジを続けていきます。



「よーいドン!」の合図で、走り出すノレン。
(手前/写真提供:センター34)

3 1996年にティノト村でスポンサーシップ・プログラムが始まる前は、同じ村で生活していても、民族や宗教が異なる人々は交流を避けていたという。プログラムが開始され、センターが地域の自立支援のために住民組織の立ち上げの支援を行うと、チャイルドの親たちによって「ティノト・クリスラム・ペアレンツ・オーガニゼーション」が結成された。「クリスラム」は、クリスチャン(キリスト教徒)とイスラム(イスラム教徒)の平和的な共存を願ってつくられた造語。

取材を終えて...

1996年に支援を開始して以来、何度かティノト村を訪れる機会があり、その度に人々の生活が改善されていると感じてきました。今回は特に、レイマークやノレンをはじめとするチャイルドたちの成長を目の当たりにしました。皆様のご支援は確実にチャイルドたちの成長を支え、ひとりひとりの可能性を引き出しています。心からお礼を申し上げます。

事務局長 小林毅



(写真上)ティノト村の海岸沿いに建つ家々も、17年前に比べるとしっかりしたものが増えてきました。(写真下)ジェネラル・サントス漁港には、毎日350トンから400トンの水揚げがあります。その内75%はマグロが占め、ジェネラル・サントスは「マグロの首都」と異名を持つほど。日本にもマグロを中心に輸出しています。(写真提供:センター34)

東日本大震災緊急・復興支援事業終了のご報告

2011年3月11日の東日本大震災発生後、チャイルド・ファンド・ジャパンは緊急物資の提供に続いて、緊急・復興支援活動に着手しました。2011年9月からは岩手県大船渡市を拠点に「仮設住宅団地のコミュニティ形成」、「子どもの生活充実」、「子どものこころのケアとグリーンワーク」などのプロジェクトを実施してきました。

約2年間にわたり実施した東日本大震災緊急・復興支援事業は、2013年3月31日をもって全ての活動を終了しました。皆様からお寄せいただいた温かいご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

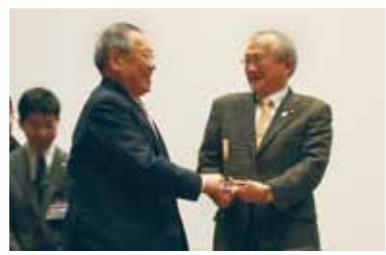
活動終了を前に、3月16日に「We are with you!～私たちはどうつながったか?～」と題した活動報告会を東京で行い、続いて20日に、岩手県大船渡市で「ありがとう大船渡～さよならだけどさよならじゃない～」と題した感謝の集いを開催しました。



東京での報告会。支援活動を協働してくださった方々とスタッフ

東京の活動報告会では、企業、学生ボランティア、子どものこころのケアの専門家、そしてもともと大船渡市で活動を展開していたボランティア団体の代表の方々がパネリストとして参加くださいました。岩手県に駐在したチャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフとともに、どのようにお互いにつながったのかを語り、つながることによって活動が広がり、強化されることが確認された会となりました。

大船渡市の感謝の集いでは、チャイルド・ファンド・ジャパンが出会った大船渡市の復興を担う市民の方々が、それぞれの活動を語り合いました。また、来場くださった約150名の方々が輪になって“さくら音頭”を踊るなど、文字通りつながりを実感する時となりました。



大船渡市での感謝の集い。大船渡を代表して戸田公明市長(右)に深町理事長より感謝の楯を贈呈しました。

大船渡での感謝の集い。会場で大きな輪になってさくら音頭を踊る参加者。



東日本大震災緊急・復興支援事業は活動を終えますが、この2年間のつながりを大切に、被災地の一日も早い復興を願いつつ、国際協力活動に従事してまいります。

これまでの取り組みを、活動報告書「歩みとともに」と、記録映像DVD「笑顔をつないで」に収めました。チャイルド・ファンド・ジャパンの活動はもとより、協働して活動を進めてくださった方々、復興のパートナーとして私たちの活動を受け入れてくださった被災地に暮らす方々の姿を文章、写真、映像を通してお伝えしたいという思いで作成しました。

ご希望の方には、活動報告書とDVDをお送りしています。(無料)

事務局(電話:03-3399-8123) までご連絡ください。



スリランカから vol.15



アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

学校教育だけじゃない!
～就学前から卒業後まで～

こんなふうにも活かされています、スポンサーのご支援 ①

次のような声を、支援地域の青年たちから聞きました。「インターネットの普及によって、ぼくたちの暮らす村と都市がつながるようになったことは、若者にとって大きな魅力です。コンピュータは、このグローバル社会の一員として生きていくために不可欠です。でもぼくたちは社会についての理解はまだ未熟です。ようやく学校を卒業できても仕事に就けない若者が、反社会的なことに巻き込まれてしまう危険性がありますし、学校に行っている、そのような危険がないとは限りません。」

チャイルド・ファンド・スリランカは若者たちを現代社会特有の危険から守り、創造性豊かな成長を支援するため、支援地域に計7つの「クリエイティブ・センター」を作りました。本やコンピュータ、スポーツ用具や楽器などを備え付け、チャイルドたちの能力を引き出す大切な役目を果たしています。

あるチャイルドのお母さんは「ふたりの子どもたちは、クリエイティブ・センターでの活動を通じて時間管理もきちんとするようになり、よく勉強するようになりました。コンピュータの使い方も覚えました。ここで過ごす時間を楽しみにしています。」と、話してくれました。

↓コンピュータの操作の練習。



↑インターネットで有益な情報にふれることができます。

*チャイルドとして支援を受けられるのは原則として一世帯一名ですが、クリエイティブ・センターは、村に暮らす子どもたち全員に開かれています。

ネパールから ナマステ! vol.11



ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

ビクラム暦のお正月

4月14日は、ネパールの公式の暦であるビクラム暦の2070年の元旦でしたが、毎年9月から10月にかけて日本のお正月とお盆を一緒にしたくらい盛大に祝うヒンドゥー教徒(人口の8割)の大祭、ダサインとティハールに比べると静かに祝われます。ビクラム暦の新年は宗教色がうすく、元旦のみが祭日で、「新年おめでとう」の声もあまり聞かれません。



2070年のビクラム暦のカレンダー。デバナガリ文字で書かれている。右下にアラビア数字。

ビクラム暦は太陰太陽暦(大枠は太陽暦)で、西暦の4月中旬が元旦にあたり、1ヶ月は29~32日です。ネパールは多民族国家であるため、ビクラム暦以外にも、ネワール族、グルン族、タマン族、シェルパ族、その他のチベット系民族などがそれぞれの暦をもち、それぞれの元旦を祝います。

支援地域のラメチャップ郡には、ネワール族、タマン族、マガール族の人々が暮らしていますが、ビクラム暦の元旦も祝います。家をいつもよりていねいに掃除し、水浴し、近くにお寺があればお参りに行きます。家に戻って、男性はお酒を飲んだりトランプをして遊び、家族でいつものご飯に肉料理の一品を追加して食べます。また、「ピクニック」と称し、友だちや家族と川辺や丘の上でお弁当を食べたりもします。

その中でチャイルドたちは、3月末に学年末試験を終え、お正月明けにある試験結果と進級の発表、そして新学期の始まりをどきどきワクワクしながら待ちます。

デバナガリ文字とアラビア数字の対応。共通点が多くある。

デバナガリ文字	१	२	३	४	५	६	७	८	९	०
アラビア数字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0

緊急支援 フィリピン台風被災者復興支援プロジェクト

2012年12月4日にフィリピン・ミンダナオ島を直撃した台風24号(フィリピン名Pablo、アジア名Bopha)の強風・洪水による被害は34州におよぶ大災害となりました(フィリピン国家防災管理委員会)。

この台風で最大の被害を受けたミンダナオ島南東部コンポステラバレー州のニューバタアン町は、1995年から2002年までチャイルド・ファンド・ジャパンがスポンサーシップ・プログラムを実施した地域です。同町2カ村を対象とした緊急・復興支援の2月末までの進捗状況をご報告します。

1月から開始した支援では、行政と連携して対象2カ村の被災世帯約897世帯のうち、100世帯分の住宅再建を開始しました。また、2月下旬には、小学校2校で子どもたちと保護者を対象とした「こころのケア」のプログラムをそれぞれ2日間行い、219名の子どもたちが参加しました。

住宅再建は、被災後も続いた雨に悩まされ、予定よりも遅れていますが、支援の開始は、住民から歓迎されています。また、子どもの「こころのケア」のプログラムで専門的な治療を要する子どもたちが見つかり、専門機関に照会することができました。被災経験が心の重荷となっている子どもも多く、プログラムを継続できるように、行政と連携をしています。



台風で完全に倒壊した家屋

避難所に身を寄せる家族

支援プロジェクト 情報 ⑦

子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

- 協力期間:2011年4月1日~2016年3月31日
- 支援対象:ラメチャップ郡の3カ村の公立16校(小学校と中学校)に通う生徒(約2,800人)と保護者、教員(103人)、学校運営委員会のメンバー(152人)、PTAのメンバー(151人)
- 協力団体:RBPW (Ramechhap Business & Professional Women)

* ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。

【フィリピン】
・子どもが読書に親しむプロジェクト

【ネパール】
▶子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
・新事業地スタートアッププロジェクト

ネパール政府は、現在公立小学校に幼稚部を併設する政策を進めています。しかし、3~4歳の子どもが毎日山道を30分以上歩いて学校に通うことはできないので、5歳をすぎて初めて幼稚部に入る子どもも多くいます。このプロジェクトでは、学校が遠くて通えない3~4歳の子どもが多い2つの集落で、学校と協力し2012年度に新たに幼稚部クラスを開きました。地域の保護者と校長らからなる幼稚部運営委員会が結成され、村人が幼稚部の教室とゴザを準備、プロジェクトが当面教員給与と研修費用を支援することが決まりました。

昨年6月に土と竹でできた教室が完成し、地域から教員が選ばれ、7月に地域で手に入る材料を使った教材作りの研修を行いました。現在3~4歳の子どもたち合計21人が、歌ったりお遊戯をしながら楽しく学んでいます。保護者たちからは、「幼稚部がなかったら、子どもたちはどんどん教育から取り残されていた。子どもの様子をすぐ見られるので近所に幼稚部ができてとても良かった。」という声が聞かれます。将来的には、行政が教員給与を支給できるよう、校長が郡教育事務所と話し合いを進めています。



子どもたちが楽しく遊べるように
手作りされた教材



住民たちが建てた
幼稚部の教室



ゆび人形で楽しく会話
の練習

お知らせ

メールマガジンを始めます!

チャイルド・ファンド・ジャパンの支援国の最新情報をメールでお届けします。支援者の方を対象として、6月に第一号を配信する予定です。配信を希望される方は、件名を「**配信希望**」として、お名前と支援者番号を news@childfund.or.jp までご連絡ください! (メールマガジンの受信を希望されない場合は、簡単な操作で配信を停止することができます。)



お知らせ

2013年度予算の概要

経常収益

受取会費 0.07%
助成金等 0.37%
事業収益 0.00%
その他収益 0.12%

受取寄付金
99.44%

受取会費	200,000円
受取寄付金	273,090,000円
助成金等	1,000,000円
事業収益	0円
その他収益	330,000円
経常収益計	274,620,000円

経常費用

人件費(管理費) 5.13%

その他経費(管理費) 4.53%

人件費(事業費) 23.72%

その他経費(事業費) 66.62%

事業費	
●人件費	68,710,000円
●その他経費	193,000,000円
●事業費計	261,710,000円
管理費	
●人件費	14,860,000円
●その他経費	13,130,000円
管理費計	27,990,000円
経常費用計	289,700,000円

当期正味財産増減額 △ 15,080,000円	前期繰越正味財産額 50,225,124円	次期繰越正味財産額 35,145,124円
----------------------------	--------------------------	--------------------------

- *2013年度よりNPO会計基準に基づく会計報告となります。
- *スポンサーシップ・プログラムへの支援金や各種支援事業への寄付金は「受取寄付金」に含まれています。
- *「人件費(事業費)」には東京事務所で事業に携わるスタッフの人件費だけでなく、ネパール事務所スタッフの人件費も含まれています。
- *「その他の経費(事業費)」にはスポンサーシップ・プログラムによる支援事業費のみならずその他の開発支援事業や広報事業に係る費用が含まれています。
- *「人件費(管理費)」は、東京事務所にて管理業務に携わるスタッフの人件費です。
- *「その他の経費(管理費)」は、東京事務所の事務管理費です。
- *2013年度は急激な円安等の要因もあり、当期正味財産額はマイナス予想ですが、新規支援者を募り、マイナス決算にならないようにしたいと思っております。

お詫び

誤表記のお詫び

2013年3月に発行したSMILES30号の4ページで「ここでも元チャイルドが活躍しています!」として、日本で暮らすエルリンをご紹介しました。記事では「エルリン(29)」として掲載しましたが、正しくは「エルリン(39)」でした。お詫びとともに、訂正いたします。

ご報告

冬の特別募金キャンペーンへのご協力、ありがとうございました!

2012年12月より皆様にはネパールで実施する「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」へのご支援をお願いしていました。その結果、961口、7,563,550円(3月31日現在)のご寄付をいただき、目標額800万円に対して94.5%の達成率となりました。ネパールの子どもたちが楽しく勉強を続けられるよう、大切に活用いたします。皆様からの温かいご支援に深くお礼申し上げます。

ご報告

書き損じハガキで沢山のご協力をいただきました!

ネパールで実施する「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」に活用するため、書き損じハガキや未使用の切手を回収しています。2013年1月から3月末までに、未使用の年賀状をはじめ、約7,235,900円分のハガキや切手をお送りいただきました。皆様からの温かいご協力に心より感謝いたします。

また、事務所を置く杉並区内で「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーン第3弾を実施しました。区内の小中学校をはじめ多くの方々のご協力くださり、昨年の12月から2013年3月末までに、合計603,366円分のハガキや切手をお寄せいただきました。今回のキャンペーンによって支援される学校は、5月から校舎の建設に取りかかっています。



キャンペーンに参加した小学生代表たちがネパール大使館を訪問し、在日本ネパール国大使館特命全権大使マダン・クマール・パッタライ閣下(左)に記念パネルを贈呈し、大使からネパールのお話を聞きました。

ご報告

大勢のチャイルドが飛び立ちました

フィリピンの協力センター47と、センター30、34と41の一部地域では、チャイルドの親たちが立ち上げた住民組織を通じて奨学金を提供するなど、子どもの教育や地域の問題の解決を自分たちで担えるまでに力をつけました。センターとチャイルド・ファンド・ジャパンは協議を重ね、本年5月末で支援事業を終結することで合意しました。人々の喜ばしい成長は、皆様のご支援の賜物です。深く感謝いたします。



センター34の地域の自立を祝う式典。皆で一つの輪になり平和と一致と願った。

訃報

大谷嘉朗氏ご逝去について

チャイルド・ファンド・ジャパンの前身、社会福祉法人基督教児童福祉会・国際精神里親運動部で長く部長をされた大谷嘉朗氏が5月7日に91歳で逝去されました。1975年の運動部の立ち上げと、その後の発展に貢献されました。ご遺族の上に、神様の豊かなお慰めをお祈りいたします。



ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドだより SMILES> 2013年6月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: http://www.childfund.or.jp/

(デザイン)
モステデザイン研究所
(印刷)
有限会社東西印刷

